

# GOD WITH US

Part 11: LATER LETTERS

Message 11 – 1 John

Walking in Truth

神はわれらと共に

パート 11：後の手紙

第 11 メッセージ – ヨハネの手紙第一

真理の内に歩む

## はじめに

新約聖書の中には、使徒ヨハネの人生と宣教について多くの言及があります。使徒ヨハネと、その兄、ヤコブ（参照：12章2節、殉教した使徒。）と、ペテロの三人は、イエスの側近中の側近でした。ヨハネが、イエスと共に生活をした弟子の一人であることと（参照：福音書）、初代教会において、大きく貢献した（参照：使徒行伝、特に、ヨハネの福音書、ヨハネの手紙第1-3、ヨハネの黙示録）弟子であるということから、ヨハネの教えと勧告は、非常に重要であると言えます。他の使徒たちが殉教した後、ヨハネは何十年も生き残りました。（参照：第一ヨハネ4&5の別記、ヨハネの生涯と宣教についてのより詳細な説明。）ヨハネの福音書は、他の3つの福音書と比較して非常に独特です（多くの学者は、これらの3つの福音書は、同じ見解を共有し、明確に関連していると見ているので「共観福音書」と呼んでいます）。ヨハネの黙示録は、新約聖書の中の唯一の預言書であり、ヨハネの手紙第1-3は、神への真の愛の本質的証拠として、他者への愛を強調している点で独特です。このように、使徒ヨハネは、1世紀の初期のキリスト教会の設立と

成長において、重要な役割を果たしました。ヨハネの文体の特徴の1つは、主題から主題へと飛ぶ傾向があり、頻繁に元の主題に戻って、同じ考えを新しい角度から繰り返す傾向があったことです。クレイグ・ブロムバークの学術書「From Pentecost to Patmos（ペンテコステからパトモスまで）」で提供した下記の表はとても役立ちます。この本には、3つの主要なテーマがあり、それぞれが3回（サイクル）繰り返されています。

	第一サイクル	第二サイクル	第三サイクル
神の戒めを守る	1：5-2：6	2：28-3：10	5：16-21
互いに愛し合う	2：7-17	3：11-24	4：7-21
神／人である	2：18-27	4：1-6	5：1-15
イエスを信じる			

## プロローグ：いのちのことば：1：1-4

ヨハネは、他の新約聖書の手紙によく見られるありきたりの挨拶ではなく、ヨハネの福音書とほぼ同じ方法で、いのちの「ことば」である人となられたキリストの現実に焦点を当てることによって記し始めます（参照：ヨハネ1：1-18、イエスは、神の「ことば」すなわち、神の「啓示」または「現れ」を意味します）。

**1:1** 初めからあったもの、わたしたちが聞いたもの、目で見えたもの、よく見て手でさわったもの、すなわち、いのちの言に

ついて—— 1:2 このいのちが現れたので、この永遠のいのちをわたしたちは見て、そのあかしをし、かつ、あなたがたに告げ知らせるのである。この永遠のいのちは、父と共にいましたが、今やわたしたちに現れたものである—— 1:3 すなわち、わたしたちが見たもの、聞いたものを、あなたがたにも告げ知らせる。それは、あなたがたも、わたしたちの交わりにあずかるようになるためである。わたしたちの交わりとは、父ならびに御子イエス・キリストとの交わりのことである。 1:4 これを書きおくるのは、わたしたちの喜びが満ちあふれるためである。（第一ヨハネ 1：1－4）

ヨハネはここで、神の子イエス・キリストは、神のことが生きて具現化したお方で、見ることも触ることもできたという現実を強調しています。偽教師（後のグノーシス主義の様な）は、霊（聖なるもの）を善とし、肉や物質を悪とみなす霊肉二元論を教えていました。したがって、イエスが歩いたときに、足跡が残らなかったとか、十字架刑でも、イエスは、痛みを感じられなかった等と主張し、イエスは、肉体を持つ人ではなく、むしろ、ある種の幽霊、または顕現であったと教えていました。ヨハネは、イエスをその目で「見た」だけでなく、その手で「触れた」ことを強調しました。ヨハネの要点は、イエスは幽霊の様な存在ではなく、肉体が備わった、真の人であったということです。この冒頭の段落の終わりに、手紙の主な強調点、「神との交わり」を紹介しています。

ヨハネの喜びは、読者がイエスについてのメッセージを理解し、受け入れることに依存しているのはなぜでしょうか（第一ヨハネ 1:4）。それは、すべてのクリスチャンに、生きておられる真のキリストとの交わりに歩むことの大きな驚異を知り、体験してもらいたかったからです。救い主をよく知っている人は、他のクリスチャンが逃している可能性のある喜びのために、より深い知識とキリストとの交わりを求めるように勧める以外ありません。あなたは、意図的にキリストを知ることが追求するとき、ますます喜びを感じておられるでしょうか？ また、ヨハネの様に、他の人がイエスをもっと深く知ることができるように助けたいという大きな願望がもたらされたでしょうか？

### 第一サイクル：1：5－2:27

ヨハネは、3つのサイクルで、3つのテーマをカバーしています。最初の主なテーマは、真の信仰の証として、神の戒めに従順であるということです。

#### A. 神の戒めを守る：1：5-2：6

神への従順は、心の変化の証です。「イエスを知っている」と言う人は、「イエスが歩まれた様に歩む」でしょう（第一ペテロ 2:6）。イエスのご性質に似ていなければ、イエスとの関係の現実には存在しません。

## -神との交わり：1：5-10

ヨハネは、イエス・キリストへの信仰を通して、神との関係を築いた信者たちに宛てて、この手紙を記しました。彼の関心は、主に、神との親密な交わりを維持する方法を教えることでした。神との交わりを維持するための重要な側面の1つは、罪を認識し告白することです。

**1:5** わたしたちがイエスから聞いて、あなたがたに伝えるおとずれは、こうである。神は光であって、神には少しの暗いところもない。**1:6** 神と交わりをしていると言いながら、もし、やみの中を歩いているなら、わたしたちは偽っているのであって、真理を行っているのではない。**1:7** しかし、神が光の中にいますように、わたしたちも光の中を歩くならば、わたしたちは互に交わりをもち、そして、御子イエスの血が、すべての罪からわたしたちをきよめるのである。**1:8** もし、罪がないと言うなら、それは自分を欺くことであって、真理はわたしたちのうちにない。**1:9** もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる。**1:10** もし、罪を犯したことがないと言うなら、それは神を偽り者とするのであって、神の言はわたしたちのうちにない。（第一ヨハネ 1：5－10）

神との交わりの内に歩む人は、（神のみ言に従って）光のうちに歩み、罪に気づいたときに罪を告白します。私たちが自分の

罪を告白する瞬間（告白＝「同意する」、または単に「認める」。）に、神は、私たちを赦してくださり、「すべての不義から」清めてくださいます。私たちが神に対して罪を犯すとき、それは、殆どの場合、他の人に対して罪を犯すことが伴われま

す。ヨハネは、これに焦点を当てているわけではありませんが、イエスは、マタイの福音書5章22-24節で、ここに焦点を当てておられます。私たちは、怒り、言葉、行動によって傷つけた人と和解しなければなりません。注：偽教師の中には、肉体的な欲望をすべて拒絶し、「霊的な領域」に生きることによって、罪のない生活を送ることができるという人たちがいます。

罪に気づいたとき、神に罪を認め、告白してください。

「霊的呼吸」を実践しましょう。「息を吐く」ことが罪の告白です。あなたが罪を告白する（神に同意する）瞬間、あなたは罪から清められます。「息を吸う」ことは、聖霊様にあなたの心の玉座に座っていただき、その御力で満たしていただくように求めることです。（つまり、キリストに運転席に戻っていただくことです。）。これが「御霊と歩調を合わせる」ということです（ガラテヤ 5:25）。

## -弁護してくださるイエス様：2：1-2

私たちが罪を告白するとき、罪が赦されたことをどのように知ることができるのでしょうか？ イエス様は、私たちの罪

のために死んでくださり、今は、天国で、私たちのすべての罪と躓きに、ご自身の十字架の完成した御業を絶えず適用することによって弁護してくださっていると知ることによってです。

**2:1** わたしの子たちよ。これらのことを書きおくるのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためである。もし、罪を犯す者があれば、父のみもとには、わたしたちのために助け主、すなわち、義なるイエス・キリストがおられる。**2:2** 彼は、わたしたちの罪のための、あがないの供え物である。ただ、わたしたちの罪のためばかりではなく、全世界の罪のためである。（第一ヨハネ 2：1，2）

キリストの死には、2つの働があります。1) 信者にとっては、罪に対するなだめの捧げものとして受け入れられた贈り物であり、信者に代わって、イエス様が継続的に弁護してくださるための土台です。2) 未信者にとって、キリストの死は、心の変化と受け入れがあるまでは、受け入れられない贈り物です。イエス様は、全人類を愛しておられ、すべての人のために死なれることによって、愛を証明してくださり、すべての人に罪の赦しと清めを与えてくださいましたが、神は決して、その愛を強制されることはありません。一人一人がキリストを通して神の愛の賜物を受け入れることによって応答しなければなりません。

## -真に神を知ることの証である神への従順：2：3-6

神を真に知る証である従順の強調は、「完全な従順」を意味するものではありません（参照：第一ヨハネ 1：5-10、すべての信者が罪を犯す。）。ヨハネは、イエスの戒めに従って歩み、よりイエスのようになりたいと望み続ける、一貫した型について話しています。

**2:3** もし、わたしたちが彼の戒めを守るならば、それによって彼を知っていることを悟るのである。**2:4** 「彼を知っている」と言いながら、その戒めを守らない者は、偽り者であって、真理はその人のうちにはない。**2:5** しかし、彼の御言を守る者があれば、その人のうちに、神の愛が真に全うされるのである。それによって、わたしたちが彼にあることを知るのである。**2:6** 「彼におる」と言う者は、彼が歩かれたように、その人自身も歩くべきである。（第一ヨハネ 2：3－6）

偽教師たちは、キリストの人性（イエスは、人ではなかった。）についてのみならず、キリストが信者たちに教えられた生き方においても、人々を惑わせていました。悪である肉をどのように用いても、霊に対する影響はなく、放縦な生活を容認する教えを教える者がいた（参照：第二ペテロ 2：2、ユダの手紙 4章）、その一方では、真の救いへの道は、厳格な我慢の実践によるものであると教えていました（参照：第一テモテ 4：1－4）。いずれにせよ、偽教師たちの教えは、イエスが弟子たちに与えられた戒めに従うものではありませんでした。

嘘を見抜く最善の方法は、真実を知ることであると言われて  
います。「キリストの命令」を知りたいと思われるなら、  
是非、4つの福音書と新約聖書のそれぞれの手紙を研究し、イ  
エスの教えと警告を吸収してください。それは、著者たちの  
真意を知るために必要不可欠です。そうすることで、嘘や逸  
脱を識別する能力が十分に発達するようになります。私たち  
が健全な霊的識別力を発達させなければ、欺瞞の標的になり  
やすいからです。最も重要なことは、私たち自身のためにも  
、神の喜びとご栄光のために、神の命令に従うために、先  
ず、神の命令を心に留めようとする切実な努力です。

#### B. 互いに愛し合いなさい：2：7-17

兄弟を愛することは、この手紙の主要なテーマです。実  
際、兄弟を愛することは、私たちが真に神を愛していること  
の主な証でもあります。このテーマは、2番目と3番目のサ  
イクルで非常に顕著になります。

##### -愛についての命令に従って歩む：2：7-11

イエスが従者たちに与えられたいくつもの戒めの中の黄金  
律が、互いに愛し合いなさいという「新しい命令」でした（参  
照：ヨハネ13：34,35）。これは、イエスが真の弟子たちの究極の  
証になると言われました。イエスは、それを「新しい命令」  
と呼ばれましたが、実際には、それは旧約聖書の中心的な教  
えでした（レビ記19:18、申命記6：4）。イエスは、この愛の命令を

トップ事項に繰り上げられたのです。イエスが別の箇所で言  
われたように、旧約聖書全体は、神を愛することと、隣人を  
愛することの2つの戒めに要約することができます（マタイ22：  
36-40）。

何十年も後、ヨハネは、「新しい命令」としてではなく、  
使徒たちが初代教会の頃から教えられてきた戒めとして、愛  
の命令を再び提起していました。ヨハネがこの手紙を記した  
頃（おそらくイエスが最後の晩餐でイエスが語られてからおよそ60年後と考えられ  
る。）には、「新しい命令」は、クリスチャンの間でもよく知  
られている「古い命令」となりました。

**2:7 愛する者たちよ。わたしがあなたがたに書きおくるのは、  
新しい戒めではなく、あなたがたが初めから受けていた古い  
戒めである。その古い戒めとは、あなたがたがすでに聞いた  
御言である。2:8 しかも、新しい戒めを、あなたがたに書きお  
くるのである。そして、それは、彼にとってもあなたがたに  
とっても、真理なのである。なぜなら、やみは過ぎ去り、ま  
ことの光がすでに輝いているからである。2:9 「光の中にい  
る」と言いながら、その兄弟を憎む者は、今なお、やみの中  
にいるのである。2:10 兄弟を愛する者は、光におるのであ  
って、つまづくことはない。2:11 兄弟を憎む者は、やみの中  
におり、やみの中を歩くのであって、自分ではどこへ行くのか  
わからない。やみが彼の目を見えなくしたからである。**

(第一ヨハネ2：7－11)

憎しみは愛の反対であり、キリストの従者の生活の中に存在する場所などありません。実際、人が「兄弟を憎む」場合、その人は文字通り「闇の中を」盲目に歩いています。この手紙の後半で、ヨハネは、兄弟を愛していないのに「神を愛している」と言うことはあり得ないと言っています（参照：第一ヨハネ 3:14; 4: 20, 21）。自身の心を調べみましょう。誰かに対して苦味を抱いておられますか？ あなたの弁護をしてくださるイエス様にそれを告白しましょう、そうすれば、イエス様は、あなたを赦してくださいます。それから、あなたを傷つけた人々を愛する力を与えてくださるよう寄り頼みましょう。

#### -成熟段階：2：12-14

ヨハネは、神を真に知ることの証として、従順の必要性を強調しましたが、クリスチャンの成熟の過程には、段階があることも認識していました。成熟の3つの段階と、各段階に関連する特性についても説明しています。「家族」の類比を用いていますが、最終的には、すべての人々の霊的な成熟の段階を指しています。

**2:12** 子たちよ。あなたがたにこれを書きおくるのは、御名のゆえに、あなたがたの多くの罪がゆるされたからである。**2:13** 父たちよ。あなたがたに書きおくるのは、あなたがたが、初めからいますかたを知ったからである。若者たちよ。あなたがたに書きおくるのは、あなたがたが、悪しき者

にうち勝ったからである。**2:14** 子供たちよ。あなたがたに書きおくったのは、あなたがたが父を知ったからである。父たちよ。あなたがたに書きおくったのは、あなたがたが、初めからいますかたを知ったからである。若者たちよ。あなたがたに書きおくったのは、あなたがたが強い者であり、神の言があなたがたに宿り、そして、あなたがたが悪しき者にうち勝ったからである。（第一ヨハネ 2：12－14）

幼い子どもたちは罪の赦しを知っており、神を父として知るようになりました。息子や娘は、神のみ言の力が彼らの中に留まる状態で悪と戦う方法を知っており、邪悪に対する勝利を達成しています。父たちは、神を最初から存在されてきた永遠の方として深く知っており、神の永遠の計画と目的をより完全に理解しています。

あなたがイエスの従者としての成熟度を説明するために、この3つのカテゴリーのいずれかを選択するとしたら、どれを選択されますか？ イエス様との成熟段階を次のレベルに進めるためには、何が必要だと思われますか？ そのためには、神のみ言の真理をもっと学ぶことや、キリストのより成熟した信者によって訓戒されたり、「邪悪なものを克服する」ことを学んだり、ミニストリーに関与することが含まれる可能性があります。

## -世を愛してはならない：2：15-17

神と兄弟への愛は、イエスの従者の証です。対照的に、神の民は自分の心が「世のもの（世の価値観や態度）」を愛するようにならないようにと注意しています。

**2:15** 世と世にあるものごとを、愛してはいけない。もし、世を愛する者があれば、父の愛は彼のうちにない。**2:16** すべて世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、持ち物の誇は、父から出たものではなく、世から出たものである。**2:17** 世と世の欲とは過ぎ去る。しかし、神の御旨を行う者は、永遠にながらえる。（第一ヨハネ2：15－17）

ヨハネの福音書の中で、ヨハネは「世」について55回、この手紙の中で、さらに18回言及しています。「世」は、文脈に応じて、ヨハネにとっては、異なる意味を持っています。多くの場合、上記の箇所のように、「世」とは、邪悪な者の力の中にある、この世の制度を指します（参照：1ヨハネ5:19）。それはサタンの王国であり、神の王国に反対して立っています。世は、イエス様が私たちに提供してくださるものとは対照的に、邪悪なものが提供するすべてです。ヨハネの黙示録第18章は、ヨハネの預言的観点から、世を鮮明に描写しています。世は、神の最終的な裁きの下にあるからです。この手紙の中で、ヨハネは信者たちがこの世の価値観や制度に引き込まれようとする誘惑に警戒するようと言っています。私たちがイエス様に目を留めるとき、この世の力を克服するこ

とができます（1ヨハネ5:4,5）。ヨハネは、ここに「世」の3つの側面を上げています。

-**肉の欲望**：罪深い性質の渴望、特に官能的な満しの渴望。罪深い衝動に応じる。

-**目の欲望**：見るものを欲しがり、外見を気にする。心の貪欲な憧れ。

-**暮らし向きの自慢**：私たち自身に名誉と栄光をもたらすもの。他の人よりも優れていることに誇りを持つ。重要性または優位性を証明する必要性。

これらの3つの誘惑のカテゴリーは、聖書の他の2つの重要な箇所と並行しています。エデンの園における、サタンによるアダムとイブの誘惑（創世記3:1-7）と、荒野における、サタンによるイエスへの誘惑です（マタイ4:1-11）。

## c. 神であり、人であられたイエスを信じる：2：18-27

一番目のサイクルは、3番目のテーマであるイエスについての正しい信仰を維持することに焦点を当てて終わります。ヨハネの福音書の中で、ヨハネは、人々が神の子としてのイエスを信じることを助けるために記しました（参照：ヨハネ20:30,31）。ヨハネの関心は、キリストの神性にありました。第一ヨハネの手紙の中では、特に神であられ、人でもあられたイエスの真の人性についての後の誤りに向き合っています。肝

心なのは、イエス様の正しい見方こそがイエス様を「信じる」ための土台となるということです。

### -偽教師：反キリスト：2：18,19

偽教師（反キリスト）がキリスト教の教会に潜入しましたが、その後、何らかの理由で去りました（おそらくその誤った信念を囲む独立したカルトグループを形成するためと思われる。）。彼らが「私たちがから出て行った」と記されていることから、彼らは、真に「私たちに所属するもの」ではなかったことを証明しています（つまり、真のクリスチャンの信仰の一部ではなかったということです。）。イエス様が彼らについて描写された様に、彼らは「羊の服を着たオオカミ」でした（マタイ 7:15）。

**2:18** 子供たちよ。今は終りの時である。あなたがたがかねて反キリストが来ると聞いていたように、今や多くの反キリストが現れてきた。それによって今が終りの時であることを知る。**2:19** 彼らはわたしたちから出て行った。しかし、彼らはわたしたちに属する者ではなかったのである。もし属する者であったなら、わたしたちと一緒にとどまっていたであろう。しかし、出て行ったのは、元来、彼らがみなわたしたちに属さない者であることが、明らかにされるためである。

（第一ヨハネ 2：18，19）

### -真の教師：聖霊様：2：20-27

偽教師とは対照的に、聖霊様は、神の民を真理に導いてくださいます。イエス様は、これが御霊の主な働きの一つになることを繰り返し強調されました（参照：ヨハネ 14：16,17; 25,26; 15：26,27; 16：5-15）。これは、ヨハネがここで言及しているキリストからいただいた「油」がとどまっているということです。

**2:20** しかし、あなたがたは聖なる者に油を注がれているので、あなたがたすべてが、そのことを知っている。**2:21** わたし書きおくれたのは、あなたがたが真理を知らないからではなく、それを知っているからであり、また、すべての偽りは真理から出るものでないことを、知っているからである。**2:22** 偽り者とは、だれであるか。イエスのキリストであることを否定する者ではないか。父と御子とを否定する者は、反キリストである。**2:23** 御子を否定する者は父を持たず、御子を告白する者は、また父をも持つのである。**2:24** 初めから聞いたことが、あなたがたのうちに、とどまるようにしなさい。初めから聞いたことが、あなたがたのうちにとどまっておれば、あなたがたも御子と父とのうちに、とどまることになる。**2:25** これが、彼自らわたしたちに約束された約束であって、すなわち、永遠のいのちである。**2:26** わたしは、あなたがたを惑わす者たちについて、これらのことを書きおくれた。**2:27** あなたがたのうちには、キリストからいただいた油がとどまっているので、だれにも教えてもらう必要

はない。この油が、すべてのことをあなたがたに教える。それはまことであって、偽りではないから、その油が教えたように、あなたがたは彼のうちにとどまっていなさい。

(第一ヨハネ 2 : 20 - 27)

聖霊様は、実在の人格を持たれたお方であり、信者の内に住んでくださっています。イエス様は、最後の晩餐で弟子たちに「助け主．．．真理の御霊．．．いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう。」(ヨハネ 14 : 15, 16) と教えられました。聖霊様がキリストの人性と働きに関する誤った教えを感知されると、御霊の内なる動きから何らかの形の助言を経験し(悲しみ、修正、確信等。)、内の誤りの存在を警告されます。ヨハネは、27 節で、これらの基本的な真理に関しては、「誰も教えてもらう必要はなかった」と述べています。彼は、クリスチャン教会には、教師が必要ないと言っているではありません。他の箇所では、教えることの賜物が教会の重要な働きとして強調されています。さらに言うと、この手紙をヨハネが記したことに関しても、信者に教えたり、警告したりする必要がまったくなければ無意味であることになってしまいます。ヨハネは、彼らがキリストの人性と働きについての真の教えをすでに聞いて受け入れ、聖霊様によって彼らの心の内に確認されたと言っています。彼らはこれらの基本的な真理を再教育される必要はありませんでした。むしろ、反対の教えに対して警戒する必要がありました。

当時も今も、この警告はとても重要です。「**2:23 御子を否定する者は父を持たず、御子を告白する者は、また父をも持つのである。**」(第一ヨハネ 2:23)。ヨハネは、神の子イエスの人性と御業を否定している間は、「父を持つ」ことは不可能であると言っています。父と御子の関係は切っても切れないものです。父なる神は、御子を通して、ご自身を世に明らかにされました。さらに、ご自分のひとり子の死と復活を通して、世をご自身と和解されました。今日、イエスを最小化したり、無視したりしながらも、神を信じていると言う人々が多くいますが、これはまさにヨハネが反対していた考えです。イエス様ご自身が、「子を敬わない者は、子をつかわされた父をも敬わない。」(ヨハネの福音書第 5 章 23 節)と言われた通りです。

## 2 番目のサイクル : 2 : 28 - 4 : 6

ここで、テーマが繰り返されていますが、新しい強調と深みが加わっています。作曲の過程と同様に、ヨハネの 3 つのテーマは、クレッシェンドに向けて、それぞれのサイクルの段階において、強調と深さが増し加わります。

## A. 神の命令を守る：2：28-3：10

### 神への従順は、再臨のときの自信へと繋がる：2：28-3：3

初代のクリスチャンは、キリストがいつでも戻って来られるという非常に現実的な緊張感を抱いて生きました。この様に、彼らは自信を持って、キリストに再会し、彼らの人性の使い方についての説明責任の準備ができているように生きました。これは、イエス様が頻繁に強調されたテーマで（参照：マタイ 24: 45-25: 46）、ご自身の再臨に関連して、警戒し、準備ができている必要があることを多くのたとえ話を用いて強調されました。

**2:28** そこで、子たちよ。キリストのうちにとどまっていなさい。それは、彼が現れる時に、確信を持ち、その来臨に際して、みまえに恥じることがないためである。**2:29** 彼の義なるかたであることがわかれば、義を行う者はみな彼から生れたものであることを、知るであろう。

**3:1** わたしたちが神の子と呼ばれるためには、どんなに大きな愛を父から賜ったことか、よく考えてみなさい。わたしたちは、すでに神の子なのである。世がわたしたちを知らないのは、父を知らなかったからである。**3:2** 愛する者たちよ。わたしたちは今や神の子である。しかし、わたしたちがどうなるのか、まだ明らかではない。彼が現れる時、わたしたちは、自分たちが彼に似るものとなることを知っている。そのまことの御姿を見るからである。**3:3** 彼についてこの望みをい

だいている者は皆、彼がきよくあられるように、自らをきよくする。（第一ヨハネ 2：28-3：3）

「栄化」は、私たちの罪からの解放における最終段階（救いの完成）です。これは、イエス様が再臨される際、または、私たちが死を通して、イエス様の御傍に行くときに起こります。その間、私たちは「聖化」の過程にあります。聖化の過程では、次第にイエス様に似たものと変えられ続けます。ここでのヨハネの教えは単純です。もし最終的にイエス様に似た者とされたいと願うなら、今、ますますイエス様のように変えられたいという目標を追求すべきです。

キリストの再臨（あるいは、最終的に、キリストとの御傍に行くこと）は、あなたの今の生き方にどのように影響しますか？別の言い方をすれば、イエス様が1年後に、あなたを家に連れて帰られるという事実を知っていたなら、イエス様に会う準備をするために、どのように生き方を変えますか？あなたは何を増し、何を減らしますか？あなたの人生にどのような劇的な変化をもたらしますか？ヨハネは、「**3:3** 彼についてこの望みをいだいている者は皆、彼がきよくあられるように、自らをきよくする。」（第一ヨハネ 3：3）と言っています。あなたは、いつかイエス様に直接会うという聖書の教えに、しっかりと望みを抱いておられますか？

### 神への従順は、神の子どもであることを保証する：3：4-10

神への従順は、神を真に知ることの証であると、ヨハネは言っています（第一ヨハネ2：3-6）。ここで、この考えをさらに一歩前進させ、神への従順は、私たちが真に神の子であるという確信を心に与えると言っています。

**3:4** すべて罪を犯す者は、不法を行う者である。罪は不法である。**3:5** あなたがたが知っているとおり、彼は罪をとり除くために現れたのであって、彼にはなんらの罪がない。**3:6** すべて彼におる者は、罪を犯さない。すべて罪を犯す者は彼を見たこともなく、知ったこともない者である。**3:7** 子たちよ。だれにも惑わされてはならない。彼が義人であると同様に、義を行う者は義人である。**3:8** 罪を犯す者は、悪魔から出た者である。悪魔は初めから罪を犯しているからである。神の子が現れたのは、悪魔のわざを滅ぼしてしまうためである。**3:9** すべて神から生れた者は、罪を犯さない。神の種が、その人のうちにとどまっているからである。また、その人は、神から生れた者であるから、罪を犯すことができない。**3:10** 神の子と悪魔の子との区別は、これによって明らかである。すなわち、すべて義を行わない者は、神から出た者ではない。兄弟を愛さない者も、同様である。（第一ヨハネ3：4－10）

この箇所は、注意深く翻訳されていないと、クリスチャンは、決して罪を犯さないという印象を与える可能性があります（参照：1：8-10、すでにヨハネは、それを否定しています。）。ヨハネがこ

こで言っていることを理解するための鍵は、彼がギリシャ語の現在時制の動詞を繰り返し用いていることに気づくことです。人が罪を犯さないと言いたかったのであれば、ギリシャ語のアオリスト（不定過去）の時制を使っていたでしょう。しかし、現在形を使うことによって、真に神から生まれた人は、生き方として罪を犯し続けることはないと言っています。真の信者は、罪を望んでいるのではなく、神に従うことを望んでいるという軌跡を持っています。この第2のサイクルで、追加された考えは、神への従順は、私たちが神の子であることを保証する一方で、罪を実践し続ける生活のパターンは、その人が悪魔の子であることを保証するということです。

### B. 互いに愛し合う：3：11-24

お互いを愛し合うというテーマは、ここで2度目の登場です。違いは、より力強さが加わっています。他人を憎むと同時に、心に永遠のいのちを持つことは不可能です。あなたが誰かを憎むなら、兄弟を殺した「邪悪な」カインと同様の殺人者である（すなわち、サタンの子供である）ことを示しています。あなたが兄弟を愛するなら、神の子であることをあなた自身の心に保証します（第一ヨハネ3：19-21）。イエス様は、私たちのためにおいのちを捧げてくださる程、愛してくださったので、その従者たちは、兄弟たちのためにいのちを捧げる程、他者を愛するでしょう。

3:11 わたしたちは互に愛し合うべきである。これが、あなたがたの初めから聞いていたおとずれである。 3:12 カインのようになってはいけない。彼は悪しき者から出て、その兄弟を殺したのである。なぜ兄弟を殺したのか。彼のわがが悪く、その兄弟のわがは正しかったからである。

3:13 兄弟たちよ。世があなたがたを憎んでも、驚くには及ばない。 3:14 わたしたちは、兄弟を愛しているので、死からいのちへ移ってきたことを、知っている。愛さない者は、死のうちにとどまっている。 3:15 あなたがたが知っているとおりに、すべて兄弟を憎む者は人殺しであり、人殺しはすべて、そのうちに永遠のいのちをとどめてはいない。 3:16 主は、わたしたちのためにいのちを捨てて下さった。それによって、わたしたちは愛ということを知った。それゆえに、わたしたちもまた、兄弟のためにいのちを捨てるべきである。 3:17 世の富を持っていながら、兄弟が困っているのを見て、あわれみの心を閉じる者には、どうして神の愛が、彼のうちにあるうか。 3:18 子たちよ。わたしたちは言葉や口先だけで愛するのではなく、行いと真実とをもって愛し合おうではないか。 3:19 それによって、わたしたちが真理から出たものであることがわかる。そして、神のみまえに心を安んじていよう。 3:20 なぜなら、たといわたしたちの心に責められるようなことがあっても、神はわたしたちの心よりも大いなるかたであって、すべてをご存じだからである。 3:21 愛する者たち

よ。もし心に責められるようなことがなければ、わたしたちは神に対して確信を持つことができる。 3:22 そして、願うものは、なんでもいただけるのである。それは、わたしたちが神の戒めを守り、みこころにかなうことを、行っているからである。 3:23 その戒めというのは、神の子イエス・キリストの御名を信じ、わたしたちに命じられたように、互に愛し合うべきことである。 3:24 神の戒めを守る人は、神におり、神もまたその人にいます。そして、神がわたしたちのうちにありますことは、神がわたしたちに賜った御霊によって知るのである。(第一ヨハネ 3 : 11 - 24)

私たちに他の人を助ける能力と資源が与えられていれば、真の愛は具体的な方法で助けるために手を差し伸べます。真のクリスチャンは口先だけではなく、行いと真理をもって愛するでしょう。

あなたの影響力の範囲内の誰があなたに行動と真理による愛を必要としているのでしょうか。キリストの愛の具体的な表示をもって、誰に手を差し伸べることができますか？ イエス様の私たちへの愛は、具体的で、肉体的で、現実的で、犠牲的でした。イエス様は、私たちの必要を満たすためにご自身の資源を与えてくださいます。今週、具体的にどのようなようにして、イエス様のように愛することができますか？

#### D. イエス様が神であり、人でもあったことを信じる：4：1-6

第二のサイクルは、イエス様への真の信仰の問題を再考することによって終わります。偽りの霊は、イエス様が「肉体をもって」来られたという現実を否定することによって認識されます。真の神の霊は常に、イエス様が実際には神であると同時に、人でもあられたという真理を人々に示します。

**4:1** 愛する者たちよ。すべての霊を信じることはしないで、それらの霊が神から出たものであるかどうか、ためしなさい。多くのにせ預言者が世に出てきているからである。

**4:2** あなたがたは、こうして神の霊を知るのである。すなわち、イエス・キリストが肉体をとってこられたことを告白する霊は、すべて神から出ているものであり、**4:3** イエスを告白しない霊は、すべて神から出ているものではない。これは、反キリストの霊である。あなたがたは、それが来るとかねて聞いていたが、今やすでに世にきている。**4:4** 子たちよ。あなたがたは神から出た者であって、彼らにうち勝ったのである。あなたがたのうちにはいますのは、世にある者よりも大いなる者なのである。**4:5** 彼らは世から出たものである。だから、彼らは世のことを語り、世も彼らの言うことを聞くのである。**4:6** しかし、わたしたちは神から出たものである。神を知っている者は、わたしたちの言うことを聞き、神から出ない者は、わたしたちの言うことを聞かない。これによって、

わたしたちは、真理の霊と迷いの霊との区別を知るのである。（第一ヨハネ4：1－6）

#### ディスカッションの質問

1. ヨハネは、イエスについての誤った見方に対して力強く対抗します。イエスを正しく見ることがなぜそれほど重要なのでしょうか。イエスが誰であり、何をされたかについて独自の考え／意見を持つことの何が問題になっていますか？この手紙の中で、イエス・キリストの正体について何を学びましたか？

2. 神を知る証拠としての神への従順というテーマは、第一ヨハネにおいて非常に重要です。多くの場合、私たちは神の恵みを強調します。なぜなら、私たちは善行／従順を通して「私たちの救いを得る」という誤った概念を避けたいからです。この驚くべき恵みの強調によって、神との関係における従順の重要性を見失わないようにするにはどうすればよいのでしょうか。どこで従順を強化する必要がありますか？

3. 兄弟を愛することは、実際には、神への従順の一形態にすぎません。では、なぜヨハネは、それがイエスを真に知っていることの重要な証拠として選出しているのでしょうか。あなたは実際に愛するために、誰を選ぶ必要がありますか？何が彼らに愛を示しますか？